



TITLE:

海外日誌(十六)

AUTHOR(S):

山本, 一清

CITATION:

山本, 一清. 海外日誌(十六). 天界 1924, 4(41): 201-203

ISSUE DATE:

1924-05-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160070>

RIGHT:

海外日誌 (十六)

Harvard College Observatory,
Cambridge, Mass., U. S. A.

山本一清

十月二十八日(日)

やはり車は東へ。早朝カンザス州に入り、ドツヂ市で中央標準時の圏内に入る。朝食はハチンソン、晝食はエムボリアです。午後五時カンザス市に着、こゝでシカゴ行き急行に乗り換へ。この車中で始めてサンタフェ線の食堂車に入ったところが、其の立派な構造には驚いた。

夜半、ふさ眼をさますと、列車は今やフォート・マデソンで海のやうに廣いミシシビ河を渡るころであつた。河は洪水で溢れんばかり、弦月が空に輝いて、窓外の景色は頗る神秘的であつた。

十月二十九日(月)

朝七時半、列車はシカゴのデアボーン停車場着。馴染の市街を少し歩いて、イリノイ中央線により第三十六街の島津氏を訪ふ。それから青年會で恰もニウ・ヨークから來着の赤木氏に面會した。

午後三時四十五分、シカゴ北西停車場發の列車でベリに向ふ。恰も此の車の中にヤーキース天文臺のヅンビー夫人とサリヅン夫人とが同車してゐられたのに驚き喜ぶ。午後六時ウイリアムス・ペー着。タクシでヅンビー教授宅の客となり、長く住み馴れた室に入る。

夜、久しぶりの話しをしながらヅンビー一家と食事を共にし、其の後、自分は暫く天文臺に行つて、色んな人々を話す。外は曇りて風強く雨模様。

十月三十日(火)

朝起きて見れば、外は雪が一寸も積つてゐる!!! 午前中、兩人共天文臺の自分等の室で夏以來預けて置いた荷物の仕別けをする。午後はパレット、パークハースト、フロストの順に宅を訪問。

十月三十一日(水)

午前中、自分はブルース寫眞の整理をし、後事をミス・カルブーに托す。

今夕はハルキンの催しがあるから滞在せよと薦められたけれど、豫定もあることとて、午後四時五分發のベリ發列車で出發。フロスト夫人、リー氏、ミス・カルブー等に見送らる。

午後七時過ぎシカゴ着。九時前、青年會の中に會々開かれてゐる懇親會に列席す。夜は島津氏宅にこまる。

十一月一日(木)

朝八時四十七分、イリノイ中央停車場より出發。島津氏が見送られた。いよいよ此れで永い馴染のシカゴもおさらばである。晝食は車中。午后二時半、ミシガン大學のあるアン・アーホアに着。着いて、ふさ見ると、山の手から二三百に餘る學生の一團が樂隊を先頭として歌ひながら停車場へやつて来る——之れは大學フトボール選手の間出を見送る光景であることが知れた。

自分等は、遂かにドームを目當てに天文臺へ歩いて行つた。天文臺は市街の端の小丘の上にある。訪れた時刻が遅くて、臺員は皆不在。止むなくシクレタリに案内して貰つて、新しい四十時の望遠鏡と古い十二時赤道儀を見る。こゝは以前ブリュンノフ、ワトソン兩大家の居たところ、現リク臺長カンベル氏の出身地である。現臺長ハセイ氏は南米出張中である。一九一九年末、アメリカ天文學會の年會が此地で開かれた時、恰も旅行中の我が新城教授も出席せられたことを覚えてゐる。

自分等は暫く大學構内を散歩した後、五時發の列車で出發。六時デトロイト市に着。スタトラ・ホテルに入る。

十一月二日(金)

朝九時十五分デトロイト發、大トンネルを抜けて、暫くカナダ領を走る。三度ばかり旅券の検査あり。午后三時五分、ナイアガラ瀑見驛で五分間停車場、先づ此の壯大な景色に見參。それから列車は

大釣橋を渡つて合衆國のナイアガラ市に着。自分等は此の地で下車
プロスベクト館に入る。

日の暮れぬ前に、山羊島や公園を散歩、大小多くの瀑や水の景色
を見る。ベテカー案内書非常に役立つ。

十一月三日(土)

朝ね坊して、九時起床。食後、又、瀑のあたりを散歩し、三つ子
島へも行つて見る。

さて、正午發の列車でナイアガラ發、バファローにロチェスター
まで乗り換へ、豫定のオーバーン市へ午後六時着。吉田、山本、佐
藤三君に迎えられ、神學校内の或る家にさまる。夕食はミス・クイ
クの宅で日本食の御馳走。これに當地に勉學中の日本人十名の外
ミス・アームストロングも列席した。

十一月四日(日)

さて、吉田氏の作つた忙しいプログラム始まる。——先づ、朝九
時から當オーバーン名物の州立監獄内の男囚たちの禮拜に出席、珍
らしい經驗をする。それから次に市内第一長老教會の禮拜式に列し
次で日曜學校青年組、幼年組、少年組の順に參觀、到る所で、求め
られるまゝに、少しづつ、の英語演説をした。書食は神學校學生たち
とクラブ館でする。

午後二時、吉田氏に伴はれて、神學校長スチュアート氏、同教授
リード氏の順に訪問。四時からリード教授の自動車に送られて老女
院へ行き、キエボー氏の司會の下に、「日本」に關する講話をした。

午後六時、モーア教授に招かれて晚餐を頂く。それから學生寄宿
舍モルガン・ホール吉田氏の室で、日本人だけが集まり、夜半までい
ろ／＼の感想談にふける。

十一月五日(月)

朝、神學校の女子部で天文講演をし、それから吉田、小林兩氏と
四人づれで、市内に有名な婦人ユニオンの社會事業に見に行く。こ
ゝではダレス教授夫人が大將株で萬事を切りまはしてゐた。十一時
から神學校に歸つて、モーア教授の社會學講義を傍聽。正午はダレ

ス教授宅に招かれて午餐をいただく。

午後は、英子は、連れられてカレガ・クラブの音樂會へ行き、トマ
ス・オスボーン氏の講演をきいた。自分は其の間、神學校でスチュア
ート教授の宗教學を聴講し、求められて、奇蹟問題に關する私見を
述べた。其の後、圖書館でヒンケ教授に會ひ、考古學上の文書を見
せられた。夕食はスチュアート校長に招かれ、それから一同、學校
チャペルで禮拜。次で又日本人ばかりモルガン・ホルルの山本氏の
室に集つて、夜半まで雜談す。

十一月六日(火)

午前中、神學校でリード教授の新約書起原論と、ダレス教授の宗
教學を聴講し、共に大に得る所があつた。

午餐はクラブ館。それからデビス君の自動車に乗せられて、ケユ
が湖畔までドライブした。午後三時から約束によりトマス・オスボ
ーン氏を其の立派な邸宅に訪問。監獄改良問題に關する意見など聞
く終りに同氏の著書の一部頂いて辭去。

夕餐はリード教授宅に招かれたが、席上、會々聖書と天文學との
交渉問題が話題に上つて頗る愉快であつた。夜八時から三度びモ
ルガン・ホールで小林氏の室に日本人會を催し、自分は最近天文物理
の諸問題について小講話をした。

十一月七日(水)

朝九時半、吉田、小林兩氏に見送られてオーバーン出發。シラク
ウスで乗り換へ、午後二時半オルバニー市に着、折からの雪空を冒
してテン・アイク旅館に投宿。

忙しかつたオーバーンの連日の疲れもあり、天文臺訪問は明日に
ゆづつて、今日は、夕食時に暫く市街を散歩しただけで、あさは宿
で休む。

十一月八日(木)

雪がちらついてゐる中を、朝食後、ステート街を歩いて、有名な
州廳を見、教育館の前から電車に乗つて、ワシントン公園を見た後
市街のはづれの小丘上にあるダドレー天文臺を訪問、フロスト教授

の紹介状を以つて臺長ボス氏に面會、十時赤道儀と八時子午環とを案内せられ、それから暫く計算室でアルブレクト、ロイ、ウィルソン諸氏と談話。正午辭して宿に歸り、大急ぎ旅装して、停車場から十二時三十二分東行の列車に乗る。

午後五時、スプリングフィールドで乗り換へ、五時四十分ホリヨーク清、ミス・ヤング教授に迎へられ、自動車で南ハドレー村のマウント・ホリヨーク女子大學に案内せられ、コルス氏宅の一室に宿泊す。夕食はミス・ヤングのビアソング館で多くの女學生たちと共に頂き、後、圖書館で日本よりの留學生海老名嬢に會つた。

十一月九日(金)

朝八時迄、大學チャペルで禮拜。暫く海老名、三谷兩嬢にカンパスを案内して貰つた後、自分等だけはセンターから電車で隣村のアマーストへ行き、同地農科大學教授板野氏の案内でアマースト大學天文臺を訪問、クリン教授に面會、大小種々の望遠鏡など見せて貰つた。クリン氏は純粹なヤンキー式の愉快な教授である。先の有名な臺長トド氏の話もきいた。

午後三時、元の電車で南ハドレーに歸り、ミス・ヤングの天文臺で暫く話し込む。四時からアラムニ館で教職員たちのチーの會に出席、夕方、ピアソング館で食事後、英子は室へ歸り、自分獨り天文臺でヤング教授と雑談す。此の日、ハーバードからは、ロシアのドビアゴ氏が新彗星を發見したといふ報知が來てゐた。

十一月十日(土)

朝、案内されて植物温室の美しい花など見た後、天文臺で教授の設備など見る。十一時からミス・フアンスウオス助教授の案内で、電車で汽車道に乗りついて、ノーサンプトン市のミス女子大學へ行き、天文臺でビグロウ教授やミス・スローカムに會ひ早速伴はれてビグロウ氏宅で晝餐をいただく。それから植物温室を一覽して天文臺に歸り、建物や講義室や望遠鏡などを見せられた。

夕方、南ハドレーに歸つて、夕食後、天文臺で、今到着したばかりの去る九月の日食寫眞の幻燈畫試寫を見る。

十一月十一日(日)

朝十時から大學チャペルの禮拜式。シカゴ大學のシェラー、マシウス教授が休戦紀念の説教をせられた。

午後、カンパス散歩。

夕食は、ヤング教授の好意により、大學イン食堂で海老名三谷兩嬢と四人、他人交らすの日本人會を催ふし、食後も、長く雑談した。

十一月十二日(月)

朝チャペルで禮拜。九時半から、ヤング教授の求めにより、シニア級の天文科に天文同好會の話をした。

それから荷作り。十時半の電車で此の南ハドレーの大學を辭去しホリオークで汽車に乗り換へ、スプリングフィールドで再び幹線に乗りかへ、午後三時二十分、いよゝホストンの南停車場着。それから地下電車でケンブリヂのハーバード大學天文臺に着いたのは四時過ぎであつた。天文臺では臺長シャプレイ氏及びミス・カノンに會ひ、案内されてバキングム通りのレイコク氏方の一室に入る。

午後五時、シャプレイ臺長と共に大學シェフアソン物理實驗所に催される物理天文談話會に列席し、ライテン氏の近距離恒星論をきく。

十一月十三日(火)

朝暫くハーバード廣場に近い邊を歩いて借室をさがして見たが、好いのが見付からない。さにかかボストンへ行き、南停車場でトラシク類をケンブリヂへ送り届けて貰ふやうに頼み、後、ワシントン街の繁華な所を散歩して歸宅した。

午後、天文臺で、シャプレイ臺長からA館の樓上の一室を與へられた。東と北とに窓があり、天文臺の全ヤードが見渡せる所で、入口に近くて、實に好い室だ。臺長自ら曰く「此の室は美しいよ」今日、ハイデルベルヒのラインムート氏だ彗星見たいなものを發見したといふ電報がコペンハーゲンから來てゐた。